

邪馬台国の興亡→大和朝廷成立までの歴史詳細

日隈(日前、熊野家)の伊弉諾、倭奴国王朝の東方統治立て直しに奔走→豊葦原中つ国王の大穴持(大国主)を伊弉諾太子(熊野櫛御気野)に引き取り、向津姫(六代女系天神の宗女)の婿養子〔豊受(天照)皇太神〕に押し込む 180年過ぎ畿内オロチ勢、騒乱→伊弉諾、淡路島に仮宮して鎮圧に赴く皇太神、副都を治める大倭国・三輪大物主と組み、謀反→神戸市東部で倭国大乱勃発→出雲半島閻見国(黄泉国)で決戦天叢雲、オロチ、水天神天照大神と語り、邪馬台国(瑞穂の厳之国王朝)建国→銅剣天叢雲剣を天璽に奉る 185年頃伊弉諾、北九州を蹂躪され、日向に敗走 180年代後半向津姫と素戔嗚、伊弉諾旗下の日隈、大山祇、海神本家・海神三神、住吉神、住吉三神も、熊襲の薩摩や日向に敗走伊弉諾、敵に屈して裸伏(降伏の儀式)を強いられる伊弉諾嫡子の子(蛭児)→人質(蛭子)として三輪氏に護送薩摩の大山祇(木花開耶姫の父)と日向の海神本家(婿養子の海神豊玉彦→海神本家筋)、邪馬台国寄りの瑞穂国建国伊弉諾と向津姫、高千穂郷に高天(=倭国)再現→高千穂宮開都向津姫、天照大御神と日神に昇り、八咫鏡を天璽に奉る厳香来雷の娘・稚産霊を分身稚日女に起用 180年代後半

ヒミコ、火瓊瓊杵と仲違いし、相争う→続いて天火明、謀反→笠縫邑に遷座し、高皇産霊・天照大神に加護を祈願→一転して火瓊瓊杵と和睦→天火明と日高見勢、東北に逃走火瓊瓊杵に一代限りの和王尊称を許可、火瓊瓊杵の兄・海幸彦に倭王位を確約し、纏向参内を促す天火明の娘・豊織入姫(トヨ)を自身の宗女に指名天火明の娘・倭姫をトヨ後継者に指名 247~8年海幸彦(火明鏡速日)、日向から大倭に天降り 248年頃ヒミコに見えて瑞宝・羽羽矢、八咫鏡・十握剣を賜り、天火明と鏡速日(天照大神の孫、初代垂仁)の家督相続纏向珠城丘陵に移り住み、日本の倭家(日本家)創設天照大御神、倭姫を連れ、笠縫邑から伊勢五十鈴宮に遷座櫛御柱と天叢雲剣で高皇産霊・天照大神の再来を祈願250年頃、逝去→箸墓円墳境のものがり屋に仮葬→ホケノ山古庵に移葬後、円墳を周濠付き円墳に改築→墳頂に本葬火明鏡速日(三代垂仁)、纏向玉城宮に都し、日本朝<日本家+大日本国(大倭国)>創設→ヒミコ流の倭(奴)国王朝再現瑞宝・羽羽矢を天璽、八咫鏡・十握剣を神璽に奉る→騒乱勃発→二代女王トヨ擁立で漸く鎮まる→十握剣で女王トヨを守護 250年代前半火火出見、火瓊瓊杵の日前を継ぎ、高千穂宮(霧島市)開都

倭国=(高天、天之国+日高)=天之国が蘇る国

素戔嗚、養子五十猛を連れ、新羅に出兵→奥出雲に潜入し、八俣大蛇(オロチの天照大神親子)退治→出雲熊野家再興→熊野櫛御気野の名も併せ持つ 190年代初め豊葦原中つ国再興に奮戦するも四苦八苦 190年代素戔嗚実子の大己貴(大国主)、葦原中つ国再建 200年代播磨・丹後・越(高志)勢と組み、邪馬台国を執拗に攻撃天日槍、甲兵八千を引き連れ、播磨に襲来→大己貴に大敗天照大神、日神に政奉還決意→高天に赴いて高皇産霊と語り十握剣で日神守護、葦原中つ国平定→大己貴の国譲り天火明と大己貴を連れ、丹後・近江經由で大倭に向かう近江高島宮で新王朝の所造天下に腐心→天成神道を国是に掲げ、大己貴に纏向上之宮造営、火明に東国征伐を下命火瓊瓊杵、吾田に降臨→笠沙宮を開き、日隈(日前)再興木花開耶姫(女神大山祇)と結婚→大山祇家、火瓊瓊杵の外戚天火明(二代垂仁)、大倭に日高見国建国 220年代中頃天火明の兄・菅津別(火火出見)、誕生日神、素戔嗚と共に丹後・淡路、紀伊經由で大倭に向かう熊野に向かう途上で、天照大神逝去 220年代中頃急遽纏向入りし、大喪→天照大神を纏向石塚古墳に埋葬

火明鏡速日、一都七道制(大倭国、西海道・山陽道・山陰道・北陸道・東山道・東海道・南海道)の長→都督、道主採用女王トヨ、晋に朝貢 265~6年火明鏡速日、箸墓円墳を周濠付き帆立形前方後円墳に改造→泰山に見てて郊祭し、天神天照国照彦天火明鏡速日と語るトヨ、逝去→倭迹迹日百襲姫が三代女王に立つが程なく逝去トヨ→ホケノ山古墳、倭迹迹姫→箸墓方墳に埋葬<箸墓伝説>氣長足姫(神功)、四代女王に即位 270年代前半火火出見、高千穂宮を高原町に遷都し、和国と改名日神と火瓊瓊杵の政再現、倭(奴)国王朝再興、日隈(日前)・熊野家の先祖祭祀復興を唱え、和王と語る 270年代前半倭王の景行、熊襲征伐に赴くが捕られる 270年代後半磐余彦、日神と火瓊瓊杵の政再現、倭(奴)国王朝再興、日隈(日前)・熊野家の先祖祭祀復興を唱え、和王に立つ西海道都督の仲哀、再び熊襲征伐に赴く 280年代前半磐余彦(火火出見の孫、神武)、高千穂宮(宮崎市)から東征倭国の副都・伊都国(吉野ヶ里)、陥落 280年代中頃戦死した功労者に葬送用八咫鏡を副え、古墳に手厚く埋葬仲哀に従った神功、東征軍に寝返り→倭姫、五代女王に即位神功、東征軍に守られ、三韓征伐(新羅遠征) 280年代後半紀伊秋月で日隈(日前)、那智熊野で熊野家の先祖祭祀復興

倭奴国=倭国+豊葦原中つ国=倭国が蘇る国 [邪馬台三国志]

邪馬台国と高天、日神を倭の女王ヒミコに共立ヒミコ、瑞穂の厳之国王朝を天(厳)之国王朝(倭)に模様替え纏向に上之宮、伊都国(吉野ヶ里)に副都開都 220年代中頃天照大神妃・瀬織津姫を分身に起用→鬼道による祭政に熱中倭国配下の豪族に祝いの八咫鏡を配布火火出見、日向降臨→薩摩の大山祇家に養子入り→山幸彦火瓊瓊杵、西都市妻に遷都し、日前の西都開都 220年代火瓊瓊杵の兄・火照、誕生→日向の海神家に居候→海幸彦妻の国(女神大山祇家、投馬国)を薩摩から西都に国替え日向の海神本家筋を薩摩の開聞岳北麓に国替え海幸彦、日向に居座り続ける大山祇に養子入りした火火出見→開聞岳北麓に移住天火明、常陸・陸奥を制圧。千葉県市原市惣社に東都を開き、日高見国を東都に国替え→常陸・陸奥まで統治 230年代倭の女王ヒミコ、魏に朝貢 238年自身の寿陵、ホケノ山古庵を纏向に造営火火出見(山幸彦)、海幸彦と太子の座を争う 240年前後豊玉彦の娘・豊玉姫と結婚→海神本家筋、火火出見の外戚敗れた海幸彦、火火出見に命乞いして、宮殿守護を誓約

東征軍、大倭磯城に攻め入り、日本軍を成敗日本の鏡速日、天璽の瑞宝と羽羽矢、神璽の八咫鏡・十握剣を差し出し、磐余彦に帰順を願い出る 298年頃磐余彦、大倭国と組み、大和朝廷樹立 290年代末→和国流の倭(奴)国王朝再興※大和の大→大倭国(大日本家)→大和の和→和国畝傍に橿原宮造営を下命箸墓をバチ型前方後円墳に改造し、方墳先端にトヨを本葬黒塚古墳を造営して北郊し、日本軍の武將を丁重に埋葬桜井茶臼山古墳の造営下命日本武尊に日高見の蝦夷征伐を下命 290年代末任務を終えた日本武尊、帰途の三重で病死可美真手(火明鏡速日)の兄に物部姓を与え、十握剣で朝廷と磐余彦の警護下命→父の海幸彦に代わって誓約実行伊勢神宮の祭祀を和国流に改革神日本磐余彦火火出見(神武)、即位 301年元旦斎部の天富、天璽の鏡・剣を捧げ持って正殿に奉る神日本磐余彦→三輪氏と日本朝を帰順させた磐余彦の意石塚古墳の天照大神御霊・箸墓のヒミコ御霊を日神と高皇産霊御魂に蘇らせた後、鳥見山祭場(桜井茶臼山古墳)に遷して郊祭し、皇祖天神(皇祖祖宗)に奉る 304年2月